

# 石川県生物多様性戦略ビジョン

いのちあふれ トキが舞う 里山里海を未来の世代へ

# 里山里海

人の手が加わることにより、生きものにやさしい自然環境が維持されてきた里山。たくさんの生きものを育み、人の生活と深くかかわってきた里海。里山は石川県の県土の約6割を占め、三方を海に囲まれた石川県には里海もいたるところにあります。

# トキが羽ばたくいしかわを目指して

さまざまな生きものが網の目のようにつながりを持ちながら生きていることを「生物多様性」といいます。衣・食・住など私たちの暮らしは、これら生物多様性の恵みによって支えられています。私たちの豊かな暮らしをこれからも持続させていくためには、生物多様性の保全はとても重要です。

平成23年3月、石川県は、生物多様性の保全に関するさまざまな取組や活動の拠り所として、「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定しました。

私たちに身近な自然、里山里海。そこはたくさんの生きものの命を育む、生物多様性にとって大切な場所です。里山里海はまた、農林水産業や県土の保全のほか、本県が誇る伝統文化・工芸、食文化などを育み、私たちの暮らしに豊かな恵みをもたらしています。

石川県は、里山里海を利用し、その保全をはかることで、そこで育まれるたくさんの生きものの命を守り、生物多様性の保全につなげていくことを目指しています。そのために、里山里海に人の手を戻して活用することで、里山里海に新たな魅力、価値を創造し、それがさらに人を呼び戻すという良い循環を形成し、元気な里山里海を創出することに取り組んでいます。



トキは、田んぼや水路、ため池などでエサをとり、集落近くの森や林で営巣するなど、里山をすみかとする鳥で、たくさんの生きものが生息する生物多様性が保たれた豊かな里山里海がないと生きていくことができません。トキは、1970年（昭和45年）まで本県を本州最後の生息地としていました。また、2010年（平成22年）からは、いしかわ動物園で分散飼育も開始されています。

石川県では、県民のみなさまに里山里海や生物多様性をわかりやすく理解していただくために、本県とゆかりの深い鳥「トキ」をシンボルとし、トキが舞う里山里海を未来の世代へ継承することを目標に、生物多様性の保全を進めていくこととしており、そのための7つの重点戦略を策定しました。

## ■重点戦略1 里山里海における新たな価値の創造

生物多様性の恵みに育まれた農林水産物、バイオマス資源、伝統工芸品、祭事、食文化、さらには景観など、地域資源の持続可能な利活用を通して、里山里海に新たな価値の創造をはかり、生物多様性や里山里海の保全を進めていきます。

- 世界農業遺産「能登の里山里海」を活用した地域活性化の推進
- 「いしかわり山創成ファンド」による里山里海の資源を活用した生業（なりわい）の創出、里山里海地域を元気にするイベント支援、里山景観の創造
- 里山里海の利用保全を通じて地域の活性化に意欲的にチャレンジする地区の支援
- 里山里海地域そのものを博物館と見立て、地域資源を活用した学びや保全活動の場を創出する里山里海ミュージアムづくり など

## ■重点戦略2 多様な主体の参画による新しい里山づくり

一般県民、ボランティア、特定非営利活動法人（NPO）、企業、教育・研究機関など、多様な主体の参画を得て、里山里海での人と自然の新たな関係の構築を進めていきます。

- 企業、学校、NPO、地域団体など幅広い主体が行う里山里海の利用保全に関する取組を認証、支援する「いしかわ版里山づくりISO」の推進
- 「いしかわり山創成ファンド」を活用した多様な主体の参画による里山保全活動の推進 など

### ■重点戦略3 森・里・川・海の連環に配慮した生態系の保全

適切な物質循環や生きものの生息環境の連続性の確保、生態系ネットワークの再生等を念頭に、森、里、川、海の連環に配慮した生態系保全を推進します。また、大学や研究機関、NPOなどと連携した調査研究に努めます。

- ・生物の移動や生息環境に配慮した河川整備、ほ場整備（水田魚道、水路の落差工の改良、ビオトープ造成等）
- ・大学や研究機関と連携、共同した生態系やその関連性等に関する調査研究
- ・手入れ不足人工林の強度間伐などによる生物多様性の確保 など

### ■重点戦略4 多様な人材の育成・ネットワークの推進

里山里海地域と、都市住民や NPO、企業等を結びつけ、活動を推進していく人材や、里山里海における農林水産業を担う後継人材の育成を推進するとともに、里山里海の利用保全に携わる主体相互や地域との連携・協働を進めるネットワークの構築をはかります。

- ・里山里海の利用保全活動のコーディネーターやアドバイザーの育成
- ・農林水産業を担う人材の育成（農業者育成「いしかわ耕稼塾」、林業就業者育成「あすなろ塾」、新規漁業後継者育成「わかしお塾」） など

### ■重点戦略5 積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理

条例による県指定野生動植物種の保護を進めるとともに、「いしかわレッドデータブック」掲載種の現状把握や普及啓発に努めます。また、里山の整備等により、大型野生動物とのすみ分けをはかります。外来生物の防除についても、多様な主体の参画を得ながら進めます。

- ・トキの分散飼育やライチョウの飼育繁殖技術の習得など、希少な種の生息域外保全の取組の推進
- ・鳥獣保護区の指定、特定保護管理計画などによる野生鳥獣の保護と管理
- ・能登のため池や白山などでの外来種駆除活動、防除活動の促進 など

### ■重点戦略6 生物多様性の恵みに関する理解の浸透

里山里海をテーマとしたイベント等を通じた普及啓発や、里山里海での体験学習の機会の提供などを推進し、県民一人一人に、生物多様性や里山里海から得られる恵みについての理解浸透をはかります。

- ・「いしかわ里山創成ファンド」を活用した里山里海の大切さについての普及啓発（「いしかわの里山里海展」）
- ・国際生物多様性の日（5月22日）にあわせた植樹や啓発活動の実施（「いしかわグリーンウェーブ」）
- ・民間団体等との連携・協働、部局横断によるさまざまな自然体験型環境教育の充実（「いしかわ自然学校」）
- ・森の保全活動を通じて生物多様性保全の重要性を訴える「MISIAの森」プロジェクトへの協力 など

### ■重点戦略7 国際的な情報の共有と発信

国際ネットワークや国際会議への参加を通じて、国際的な情報を積極的に収集するとともに、石川県の取組を世界に発信し、世界の生物多様性保全に貢献していきます。

- ・SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）への参画
- ・国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットとの協働
- ・JICAの里山に関する研修など、海外からの視察や研修生の積極的な受入れ など

石川県では、里山里海の利用保全という部局横断的な施策の司令塔として、また、企業、NPO、教育機関、地域団体など、多様な主体と里山里海を結び付け、里山里海を元気にする取組の実働部隊として、平成23年4月、「里山創成室」を設置しました。

また、同年5月には、多様な主体の里山里海を活用した前向きな取組を、資金面から支援する仕組みとして、石川県と地元金融機関が資金を拠出し、総額53億円の「いしかわ里山創成ファンド」を創設しました。

石川県環境部里山創成室

金沢市鞍月1-1

電話：076-225-1478

FAX：076-225-1479

メール：[satoyama@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:satoyama@pref.ishikawa.lg.jp)

ホームページ：<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/index.html>

発行：石川県（平成23年8月）

写真提供 表紙：足袋拔豪、トキ：環境省、裏表紙：中乃波木 書：大野清流

